

ロボットに夢を託して

呉高専

ロボット製作クラブ



梅雨の中休み、れんがどおりの真ん中にたくさんの人。何かなどのぞいてみると、ロボットを操作して笑顔满面の子どもたちがいっぱい。呉工業高等専門学校を紹介するイベントの中で「ロボット製作クラブ」のメンバーが、子どもたちとロボットの操作体験をしていました。

一昨年は全国大会2位。昨年

も全国大会出場を果たすなど、近年好成績を残し、全国大会の常連となりつつあるクラブです。テレビで放映されるロボットコンテスト（ロボコン）の熱い戦いぶりを見て、高専入学を希望する生徒も少なくないのだとか。部長の田中匠太郎さん（3年生）もその一人。「キット模型と違って、一から作ったロボットが動いた瞬間は何とも言えません」とニコニコ。

クラブ員は、主に機械工学科の生徒と電気情報工学科の生徒総勢54人の大所帯で、部員をまとめるのも至難のワザ。最高学年の松本将司さん（5年生）が「ロボットって、機械と電気の絶妙なコラボレーションで、初めて動くんですよ」と話すように、常に機械工学科と電気情報工学科の部員同士がコミュニケーションを取り合うよう、心掛けているそうです。

今年のロボコンのテーマは「ロボ・ボウル」。人がロボットにボールをパスし、ロボットが人へボールを投げるといった競技です。ボールもアメリカンフットボールで予測できない動きをするため、ロボットだけでなく、人にも技術が必要とされるそうです。取材時も、ボール

をキャッチする部分が、よりスムーズな動きになるよう、試作機を前に皆さん試行錯誤していました。

「最近のロボコンの傾向から、今年のテーマを発表前に予測し、早めの製作に取りかかるのが勝敗ポイントのひとつです」と田中さん。9月までにはロボットを完成させ、10月16日の中国地区大会に向けて最終調整を行うそうです。しかし、勝負は時の運。「昨年、全国大会の下馬評では優勝候補にもなったのですが、ちょっとしたミスで敗退。神頼みな面もあるのがロボコンの面白さ」と目を爛々とさせて話す松本さん。今年松本さんにとって最後のロボコン。「昨年より、少しでも上を狙いに行きます」と意気込みを話してくれました。

地区大会を順当に勝ち進み、11月に国技館で行われる「全国大会」で、呉高専の戦いがテレビ放映されることを期待しています。

